

100回目の夏 熱戦火ぶた

高校野球長野大会 復刻ユニホームで行進

第100回全国高校野球選手権記念長野大会は8日、松本市野球場で全85チームが参加して開会式が行われ、長い歴史の節目となる夏の甲子園を目指した熱戦が幕を開けた。【関連記事19・20・21・35面に】

開会式では、第1回大会が行われた1915（大正4）年以前から活動していた松本深志（松本中）長野（長野中）諏訪清陵（諏訪中）飯田（飯田中）上田（上田中）大町岳陽（大町中）飯山（飯山中）野沢北（野沢中）松商学園（松本商）岡谷工（諏訪蚕糸）の10校の部員が、当時のデザインの復

刻ユニホーム姿で入場。前回大会優勝の松商学園を先頭に、南信、中信、北信、東信の順に行進した。

選手を代表し、岡谷南の小林泰輝主将が「先輩方が築き上げた高校野球の歴史を、次の100年へとつなげる第一歩となるよう、最後の1球まで全力で戦い抜く」と宣誓した。

大会は松本市野球場に加え、長野オリンピックスタジアム、上田県営、しんきん諏訪湖の各球場で行われ、順調に日程が進めば22日に甲子園出場校が決まる。



復刻ユニホーム姿で入場行進する10校の部員たち 8日、松本市野球場